（２）除草剤・生育調整剤

【　普通作物　】

ア　移植水稲本田除草剤

|  |
| --- |
|  |

農薬等普及展示(長野県 2019)

（１行空け）

整理番号（全角） 課　題　名（左寄せ）

（１行空け）

農業改良普及センター

(試験場協力試験の場合は試験場名も並記)

（１行空け）

１ 目 的　（設計書の目的を記入する）

２ 設置場所

３ 担当者名　　　農業改良普及センター　　　　　　農家

４ 展示ほ設置方法

 (1) ほ場条件

 ① 標高　　　② 土質(灰色低地、褐色森林、黒ボク)・土性(砂土、砂壌土、壌土、埴壌土、埴土)

 　 ③ 耕土深　　　cm　　　　④ 有機物施用有無 　　　　　　⑤ 腐植の多少

 　 ⑥ 減水深　　　cm／日　　⑦ 平年の雑草の発生状況 (主要雑草名と多少)

 (2) 耕種概要

 ① 品種　　　「　　　」

 ② 育苗 ア　様式(稚苗、中苗、成苗)　 イ　播種期

 ③ 耕起、代かき　 ア　耕起日 　イ　　入水日　　　ウ　代かき日

 ④ 田植日　　　　　　　　　　　田植時の苗の草丈　　　　cm

(3) 設置状況

 ① 面積、区制 　１区　　ａ、　　　連制（または無反復）

　　② 区割り見取図

100m

100m

水尻

|  |  |
| --- | --- |
| 水尻　(展示区)　　○○フロアブル無処理区水口 | 。　。　。　。　。　。　。　。(対照区)　△△ジャンボ　。　。　。　。　。　。　。30m。　。　。　。　。　。　。　。　。　。　。　。　。　。　。無処理区水口 |

　　　 注１　ジャンボ剤の場合は、散布位置を図示する

　　　 注２　フロアブル剤、ジャンボ剤、少量拡散粒剤（豆つぶ剤等）は藻類、表層剥離の発生状況(位置)も図示する

③ 供試薬剤と処理時の状況

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 供試薬剤 | 散布 | 処理時の水深 | 雑草の発生程度及び葉齢 | 天候等 | 委託会社 |
| 時期 | 量(/10a) |
| (展) | 　　後　日（　/　） |  |  |  |  | 〇〇（株） |
| (対) |  |  |  |  |  |  |

注１ 時期：処理時期（暦日）を記入。例：代かき直後（○／○）

注２ 雑草の発生程度は主要草種の葉数で示す(例:ノビエ1.5葉)

注３ 展示区を同一圃場に設置できなかった場合は、各展示区の状況を記す。

注４ フロアブル剤、ジャンボ剤、自己拡散型粒剤の場合は処理時の藻類、表層剥離の発生状況についても記す。

④ 展示終了後の除草時期、方法　　 時期　 月　 日

　　　　　　　　　　　　　　　 　 方法

　　５　展示成績

 (1)散布条件の調査

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 供試薬剤 | 散　　　布　　　方　　　法 | 風向 | 風力 |  |
|  散布方法　　 噴　頭 　　スロットル開度　シャッター開度 |
| (展) |  　　　　　 　○○噴頭 ７／７ ４／10 | ＮＥ | ０－１ |
| (対) |   |  |  |

 注１ 散布方法：粒剤は動散、散粒器、手まき、畦畔散布、乗用管理機、田植同時

　　　　　　　　フロアブル剤は畦畔散布、水口処理、ほ場内散布

　　　　　　　　ジャンボ剤は投げ込み等を簡潔に記入する。

風力：気象庁風力階級表(ビューフォート風力階級表:参考(3))による

(2) 雑草調査(m²当り) (調査日 月　日　　処理後　日）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 供試薬剤 |  　ノビエ |  　コナギ |  ホタルイ |  　　合計 | （クログワイ） |
|
| 風乾重　　g | 同左比率％ | 風乾重　　g | 同左比率％ | 風乾重　　g | 同左比率％ | 風乾重　　g | 同左比率％ | 風乾重　　g | 同左比率％ |
| (展) | 1.00 | 10 | 0.00 | 0 | 0.03 | t | 1.03 | 5 | 0.1 | － |
| (対) |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 無処理(本数) | 10.00(50) | 100 | 1.50(5) | 100 | 10.00(10) | 100 | 21.50 | 100 | 0 | － |

注１ 雑草の記載順序はノビエ(必須、発生が無くても記載)、タマガヤツリ、コナギ、アゼナ、その他一年生雑草、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、ヒルムシロ、セリ、その他多年生雑草とする(発生の無い草種は省略)。

 注２ 雑草名は原則として正式名称を用いる。類似草種（参考(2)参照）についてはノビエ、ホタルイ、タデ、カヤツリグサなどのように総称を用いることにし、必要に応じて正式名称を記載する。

注３ 主要雑草については無処理区の雑草本数も記載する。

　注４ 風乾重は小数点以下2位までとし、有効桁数を統一する。

 雑草発生の無いものについては「０」， 雑草発生はあるが四捨五入しても有効最小桁に入らないものは「ｔ」(traceの略)、欠測は「－」とする。

　注５ 風乾重比率は、 無処理区に対する試験区の各草種別と合計の比率を整数で記載する。 比率が0.5未満のものはｔ、欠測または無除草区の雑草発生が無い草種については一とする。

注６ 同左比率は無処理区の発生が無いものについては「－」、雑草発生があるものは「100」とする。

　注７ 均一に雑草が生じていない場合、調査地点は、雑草発生の多い場所と少ない場所とし、全体として圃場の平均値となるようにする。

 (3)稲の生育調査

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 供試薬剤 | 薬　　害 |  最高分げつ期 （月／日） | 出穂期 |  成 熟 期 （月／日） |
|
| 程度 | 症　状 | 草丈 | ㎡茎数 | 月／日 | 稈長 | 穂長 | ㎡穂数 |
| (展) | 無 | － |  |  |  |  |  |  |  |
| (対) | 微 | 生育抑制 | 45 | 515 |  | 89 | 18.5 | 430 |
| 無処理 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

　　　注１ 草丈・稈長・㎡穂数は整数で記載し、穂長は小数点以下1位まで記載する。

　　　　　 ㎡茎数・㎡穂数は、調査地点の畦幅・株間を測定して算出する。

　　　注２ 最高分げつ期調査が遅れている場合が多い。 従来の 「大暑調査」 は現在の作期では節間伸長を開始した時期になり、この時点の茎数は最高茎数より減少している。したがって、最高分げつ期は普通期栽培で田植後40～45日頃(６月下旬～７月上旬頃)、晩植栽培にあっても遅くも出穂前25日までには調査を終了する。

６　考察 (除草剤又は体系ごとに対照薬剤， 無処理に比較して)

　(1) 除草効果(全般的効果，及び対象雑草への効果)

　　　定型文「展示薬剤○○は、対照薬剤△△と同等の効果が認められた。」

その他のコメントは、定型文のあとに記載。

(2) 薬害の状況(生育状況，薬害の有無，様相，程度)

　(3) その他(散布の難易，普及上の問題点，気付いた点、農家の感想等)

７　評価

　下記により該当するものに○印をする。

　Ｂ、Ｃと評価した場合は、「６　考察」にその理由を記入する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　　　　　　評価展示薬剤 | 効　果 | 薬　害 | 総合評価 |
| Ａ | Ｂ | Ｃ | Ａ | Ｂ | Ｃ | Ａ | Ｂ | Ｃ |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

 　Ａ：実用性有り、薬害無～微　Ｂ：継続検討、薬害少～中　Ｃ：実用性なし、薬害甚